

第5回陸上専門部会・第4回洋上専門部会 (合同開催)の結果概要

2022年12月27日



ZERO CARBON
HOKKAIDO
SETANA

第5回陸上専門部会、第4回洋上専門部会の結果概要

(1) 開催概要

開催日時：2022年12月19日（月） 13:00~15:00

会場：せたな町民ふれあいプラザ多目的ホール（Web併用）

議題：

(1) 前回の専門部会で出た主な意見と対応方針（案）の報告

- ・ 第4回陸上専門部会
- ・ 第3回洋上専門部会

(2) 地域説明会の開催結果の報告

(3) せたな町再生可能エネルギーに係るゾーニング

- ・ ゾーニングマップの見直し（洋上風力）
- ・ ゾーニング結果（とりまとめ資料）の最終案

(4) 今後の実施内容

(5) その他



第5回陸上専門部会、第4回洋上専門部会の合同開催状況

第5回陸上専門部会、第4回洋上専門部会の結果概要

(2) 当日のご意見

当日のご意見		対応方針(案)、当日の回答など
1	ゾーニング結果を使用する側からすると、留意事項や、配慮事項の部分については、環境影響評価の文言に則り、調査・予測・評価という言葉が適切かと思うが、最後のまとめの段階で、表現を再度確認いただきたい。	制度化されている環境影響評価と本ゾーニングは対応領域が異なるため全てを調査・予測・評価という表現にはできないが、環境影響評価に係る部分については、可能な限りご指摘の表現に見直した。
2	資料3-2,p12の関連法令名について一部誤りがあるので、再度確認いただきたい。	関連法令やガイドラインについては再度確認し、名称を修正した。
3	資料3-2,p12の記載内容について、協議、説明、相談の書き分けがよくわからない。協議と説明の意味するところなどをあきらかにしていただいた方が使う側としては使いやすい。	本ゾーニングではご指摘の用語の明確な使い分けはないため、誤解が生じないように記載を統一する。
4	秋田県の事例によると、風力発電施設を設置したことで、テレビの電波障害が発生していると聞いた。同様の事象が発生しないか懸念している。	せたな町および周辺地域の地上波デジタル放送は「北檜山中継局(北檜山区小川)」および「奥尻大成中継局(大成区貝取潤)」より発射されている。これら中継局と受信側の間を遮るかたちで風車が立つと電波障害が発生する可能性がある。このため、資料中に留意事項として追記した。
5	資料3-2,p12の留意事項④について、地域住民は、生活環境、家畜への影響を心配している。”必要に応じて”住民説明するのではなく、住民説明は必要である。地域との合意説明は大事なところなので必要に応じての表記は削除していただきたい。	資料中の“必要に応じて”という記載は削除した。
6	資料3-2,p12の留意事項③について、通常アセスで扱われない項目であり、事業者からするとなぜ入っているのか疑問に思う可能性がある。コミュニケーション上留意するなど一言注釈をつけていただきたい。	資料中の文言を見直した。
7	資料3-2,p12の留意事項④について、「累積的な影響」は評価方法が確立されていない。事業者間の情報共有の仕組みがないため、現実的には困難かと思う。書き方を検討する必要があると思う。	本来の意図は、広域に分布する促進エリア、調整エリア全てに再エネを導入するわけではなく、町の導入目標を見据え、導入量を調整するということである。資料中の文言を修正する。

第5回陸上専門部会、第4回洋上専門部会の結果概要

(2) 当日のご意見

当日のご意見		対応方針(案)、当日の回答など
8	ゾーニングマップは、公表されれば事業者だけでなく町民や研究者も目にすると思う。今後、他自治体で取り組まれる際の参考にもなるので、地域説明会の開催にあたっての周知方法や対象範囲の設定をどのように行ったか、プロセスも重要なため追記していただきたい。また、地域説明会で出た意見も掲載していただきたい。	地域説明会は、対象は町全域として、主に回覧による周知を行った。詳細については、地域説明会で出た意見を含めて、パブリックコメントまでに資料中への記載を検討する。
9	資料3-2,p12のゾーニングマップの活用する際の留意事項について、どのように活用していったらいいかの具体的な記載がない。マニュアルなどがあると良い。	行政、町民、発電事業者、その他研究者などによる活用が考えられるため、主体別の活用例を追加した。学校教材への活用については、環境教育の一環として、エネルギービジョンの中で検討する。
10	高校1年生の授業では地理が必修になってきており、その柱の一つにGISがある。先生もGISがわからないため、困っている。せたなのマップなど、地域の教材として利用可能な普及啓発的なプログラムになるといい。中学生がわかる地図を作成していただくと住民もよくご理解いただけるのではないか。	
11	地図のスケールは、A4の半分だとみづらい。最終的なゾーニングマップだけでも、地区ごとに保全エリア、調整エリアの色分けがみやすいように大きめに印刷してほしい。	ゾーニングマップについては、陸上風力、洋上風力、太陽光発電別にA3サイズのを参考資料として追加した。【資料2-2別紙】
12	資料3-2,p.24の3D,10Dというのは何か。洋上風力の部分で記載されている472mとは何を基準にした値なのか。	Dというのはローター直径、472mは風車が倒れた場合に影響が及ぶ範囲であり、高さ、ローター直径の2倍の大きい方にあてはめた数値である。解説書にも説明を加える。

第5回陸上専門部会、第4回洋上専門部会の結果概要

(2) 当日のご意見

当日のご意見		対応方針(案)、当日の回答など
13	太陽光発電の場合は日射量が重要になってくると思うが設定していないのはなぜか。	町全域で日射量の変化はほとんどないこと、町内に設置されている太陽光発電の事業者へのヒアリングから事業採算性はとれていると回答があったことから、本ゾーニングでは条件に含めなかった。
14	資料3-2,p36の営農型太陽光発電が4.6%以上と大きな範囲を占めているが、パネルの下で農業する場合、町内ではどのような作物ができるのか。他事例もあれば教えてほしい。	今後、町内で事業として成立するか調査・検討していく必要はある。全国的には、ブルーベリー、サカキ、水稲などの事例がある。千葉県匝瑳市で先進的な取組が進められている。
15	電気を作るばかりでなく、水素、蓄電池など再生エネルギーの活用方法も模索してほしい。	
16	電力をただ売るだけでなく、地域振興に結び付けられるようなアイデアをビジョンに加え、6次産業化、地産地消、地域で循環する事業ができるように町で考えてほしい。	ゾーニング結果を踏まえ、地域エネルギービジョンでも検討する。